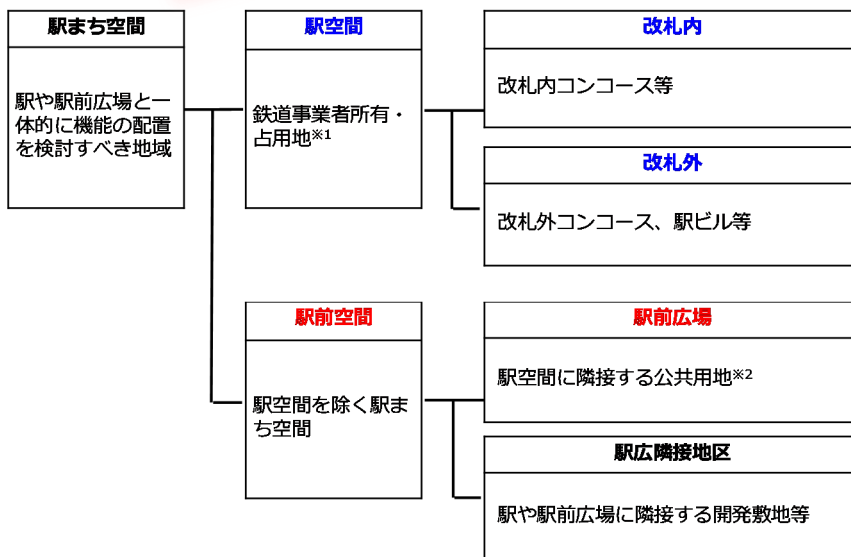
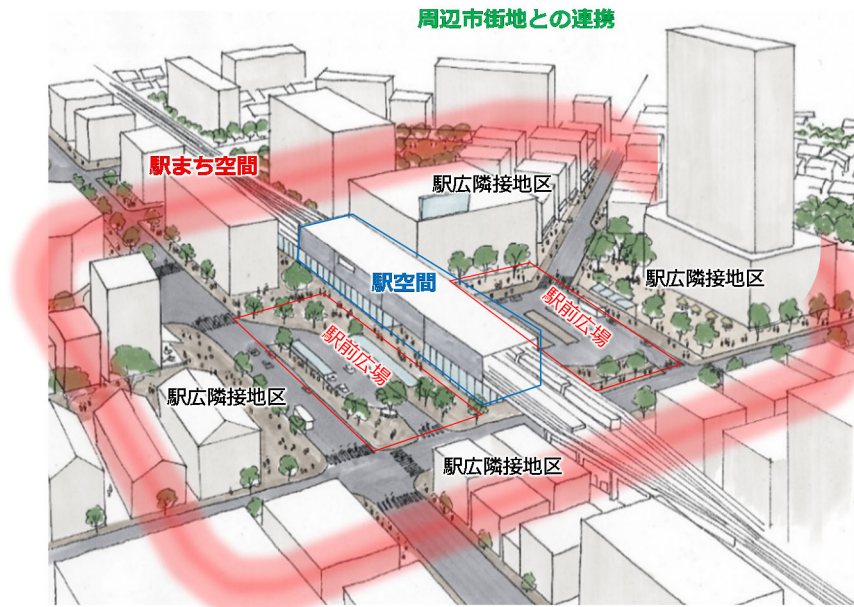


1. 駅まちデザインとは

はじめに、駅まちデザイン、駅まち空間の定義、駅まち空間の目指すべき姿について示す。

(1) 駅まちデザイン、駅まち空間とは？

- 「駅まちデザイン」とは、課題やニーズの把握、機能配置・空間設計の検討、合意形成、役割分担、維持管理に至るまで、関係者が連携して、利便性・快適性・安全性・地域性の高いゆとりある「駅まち空間」を形成するための、一連のプロセスに関する考え方や進め方のことである。
- 「駅まち空間」とは、駅や駅前広場と一体的に、周辺市街地との関係も踏まえ、必要な機能の配置を検討することが期待される空間とする。その具体的な範囲は、個々の駅・交通結節点の特性により変化するものであり、一律に定められるものではないが、「駅まち空間」の要素を分類すると以下ようになる。



※1 協定駅前広場は除く
 ※2 協定駅前広場内の鉄道事業者所有・占用地を含む

図 1-1 本手引きで対象とする「駅まち空間」の範囲

(2) 駅まち空間に求められるもの

- 駅まち空間は、スムーズな移動や乗り換えを実現する交通結節機能としての**利便性**、居心地の良い空間や魅力ある景観など充実した都市環境が有する**快適性**、歩車の分離やバリアフリー、災害時の一時避難スペースの確保などによる**安全性**、地域の歴史、文化、気候、風土とも調和した、訪れる人々が愛着を感じられるような**地域性**、このような機能を備えることが求められる。
 - 一方、近年では、人を中心としたまちづくりの注目度が高まっており、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり（ウォーカブルなまちなかの形成）が各地で推進されている。
 - これは、過度なモータリゼーションにより低下してしまったまちの魅力を見直す動きに加え、社会課題が多様化し、ソーシャルビジネスや CSR、ESG 投資等、民間にも利益追求だけでなくパブリックマインドの広がりがみられることや、同じ空間に多様なアクティビティ、使い方が共存・混在するような空間づくりが指向され始めていること等の流れに沿うものである。
 - また、デジタルテクノロジーの進展により、新たな移動サービス（自動運転、MaaS、シェアリングサービス等）が台頭してきていることや、新たな生活スタイルの普及や意識・価値観の変化が加速化されていること等も影響していると考えられる。
- 駅まち空間は、多くの人々が集まり・出会い・交流が生まれる、都市生活における重要な拠点であり、駅まち空間のあり方とともに、駅まち空間を中心として都市を考える視点も重要である。また、人の集まるところには情報も集まる。多様な情報は、新たな付加価値を生み出す資源である。このような側面からも、**駅まち空間**をこれからの時代のまちづくりの中核を担い得る場所ととらえることが必要である。
- そのため、魅力あるまちづくりを実現するため、**駅まち空間が備えているポテンシャルを最大限効果的に発揮できるようデザインすることが必要**である。
- 我が国の成熟した都市における駅まち空間を対象とすると、従来の公共交通志向型開発（TOD: Transit Oriented Development）の概念に加えて、**既成市街地の再生に向けたリ・デザインの視点や、地域の価値を持続的に向上させていくマネジメントの視点を持つことが必要**である。
- 以上を留意しながら、『つながる駅とまち ～駅とまちの上手なつきあい方～』の実現を導くものが、駅まちデザインである。



図 1-2 求められる駅まち空間のイメージ

(3) コンパクト・プラス・ネットワークの実現に向けた駅まち空間

- 駅まち空間をデザインするにあたっては、駅まち空間を構成する駅、駅前広場、周辺市街地において、鉄道事業者、地方公共団体、開発事業者等がそれぞれ個別に空間づくりに取り組むのではなく、**共有すべきビジョンを明確化し、空間や機能を一体的に捉え**、鉄道事業者、地方公共団体、開発事業者、市民等の関係者が連携し、管理・運営も含めて、**柔軟かつ総合的に取り組む**ことが重要である。
- これは、大都市から地方都市まで、都市の規模を問わず意識すべきことであり、それぞれの**地域が抱える課題や特性に応じ、関係者の連携により、利便性・快適性・安全性・地域性が高いゆとりある駅まち空間の形成**がなされることが望ましい。
- より良い駅まち空間の形成を通じて、コンパクト・プラス・ネットワークや「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりの促進につながることが期待される。

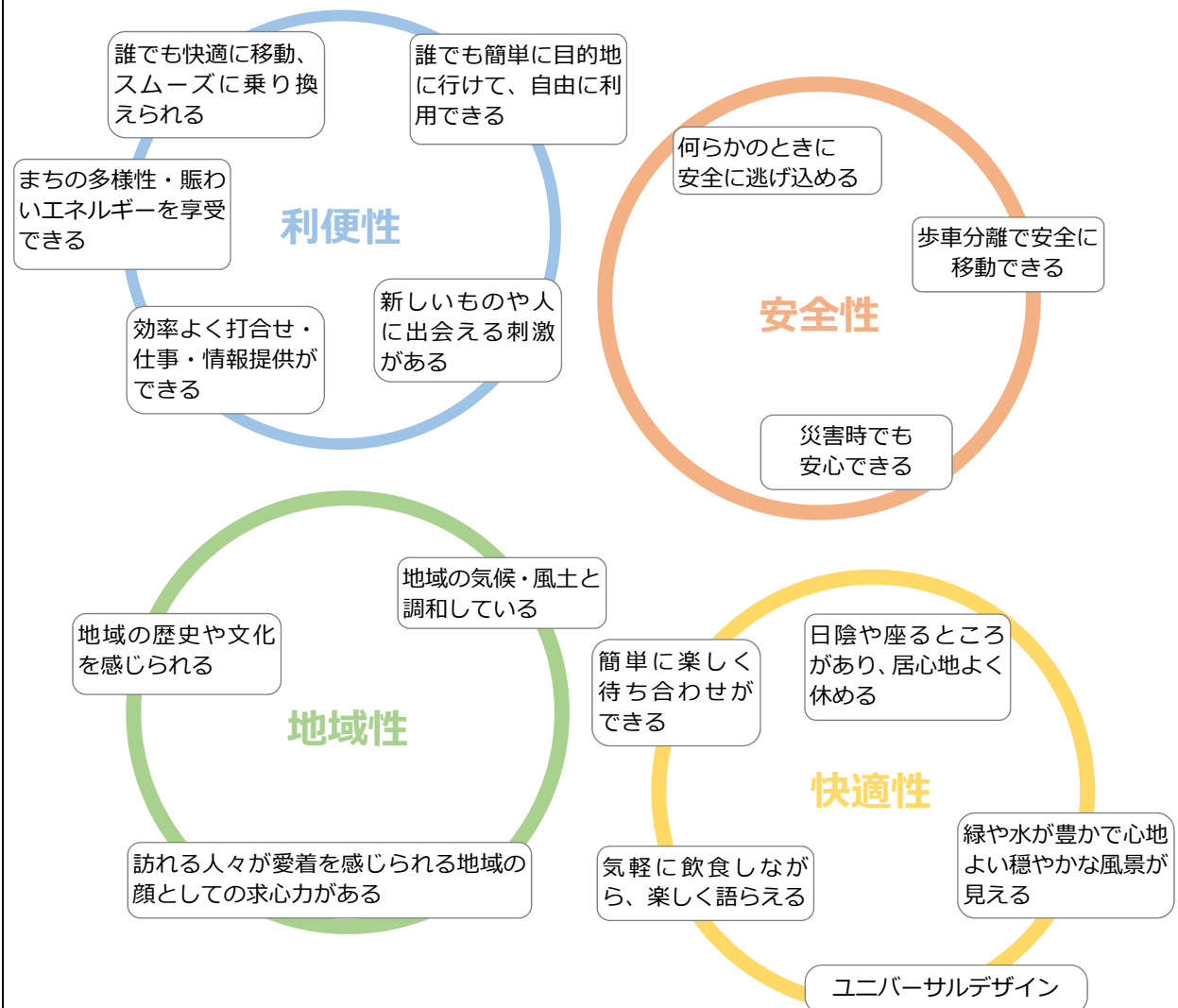


図 1-3 駅まち空間のデザインにおいて重視する事項

(4) 駅まちデザインの意義

- 駅まちデザインの意義は、関係者が連携して駅まち空間の課題解決を進めることにより、その箇所の課題解決だけでなく、**周辺エリアを含めた都市全体に多面的な効果**が得られることである。

<多面的な効果の例>

- 駅空間から周辺市街地につながる連続的な歩行者空間の創出による回遊性の向上
- 商業施設等との連携による時間帯を問わず常に人が訪れる駅まち空間の実現
- バス・タクシーをはじめとする交通事業者との連携による公共交通の乗換利便性の向上
- 市民協働によるまちづくり活動との連携による中心市街地の活性化

※詳細は『【参考 2】駅まちが抱える課題と駅まち再構築により期待される効果』を参照

参考 コンパクト・プラス・ネットワークや居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり



図 1-4 コンパクト・プラス・ネットワーク・居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり